

# 山田家(山甚)略系図 (生没名師弟他)

山甚五代

山田仲敬

柏崎平井の西巻家生れで山田家を継ぐ。一七六一〜一八一五、五六歳で没。  
通称為四郎

- ・幼少の頃、加納の寺沢石城から学ぶ。
- ・京都に出て冷泉流の和歌をたしなむ。
- ・原松洲を亀田鵬斎を通じて来住させた。
- ・柏崎田町に松洲学舎「翠光軒」を建て贈る。

六代

静里

一七八四〜一八六二、七九で没。  
名は世碩、後重弘、通称甚次郎、号静里、方寸翁

- ・茶人松村宗悦に影響を受ける。
- ・和歌を千種有功ちくさありこに学び、大徳寺大綱和尚たいこうおしょうと交わる。
- ・修斎を昌平齋しやうへいさいに学ばせ、また、貞心尼のよき理解者で、雅友と不求庵を建ててやっている。

七代

半仙

一八六〇、七四歳で没。  
名は樵、また重世、幼名は喜四郎、後甚次郎、号伴仙・夢軒・鏡土堂。  
漢学を原松洲に学び、和歌は千種有功に学ぶ。



〔参考文献〕山甚備忘録 貞心尼とその周辺、柏崎人物誌

八代

### 重秋

一八〇八〜一八六六、五八歳で没。  
名は弼 後重秋、字は宋臣、通称禎助、後為  
四郎、号沙園。

漢字を原松洲に学び、和歌を千種有功・有文  
に学ぶ。  
ちくさありこと ありふみ

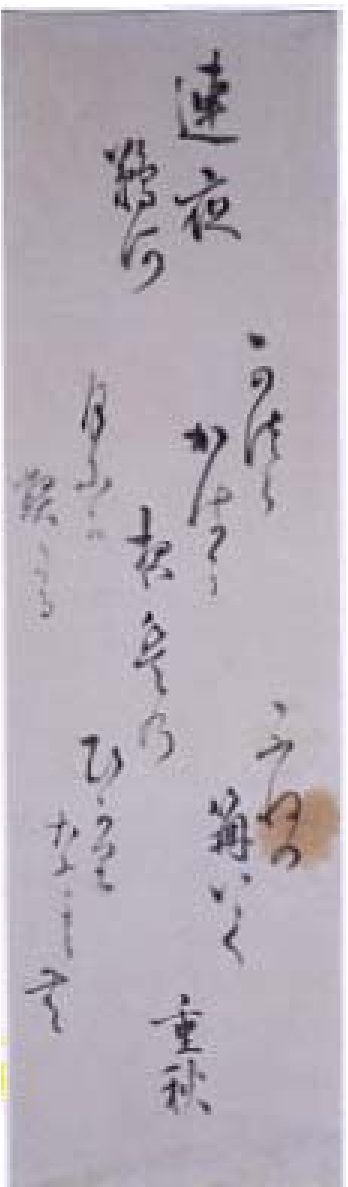
九代

### 重興

一八七七、四二歳で没。  
幼名は幾太郎、後為四郎、号観涛・青風・夢軒。  
原修斎に学び、画和歌をよくす。

### 鏡古

一九二四、八一歳で没。墓は極楽寺。  
名は健、字は白刃、通称孝二郎、号柳村・一村・  
望海・鏡古。  
漢字を原修斎に、書を陸運達、画を山口龍綱・  
田崎草雲に学ぶ。茶道は江戸千家。



十代

香雨

隆太郎

一八九六、四〇歳で没。

名は、左内、号香雨。

中国にわたり画法を胡公寿に学ぶ。

・医師 静岡の富士病院を経営。

東洋

一八六五、一九四六、八二歳で没。

名は勝之助、号東洋。

東京洋画学校に学ぶ。

(五〇歳ころ北海道に定住し、たびたび帰省)

